

## 福岡県学校教育振興プランの改訂について

本県は、平成27年11月に「国際的な視野を持って、地域で活躍する若者（ふくおか未来人財）」の育成を目指す「ふくおか未来人財育成ビジョン」を“福岡県の教育大綱”として位置づけました。

この教育大綱を踏まえ、県教育委員会では、同年12月に学校教育において中・短期的に取り組んでいく重点的な施策等を示す“福岡県学校教育振興プラン”を策定したところです。

県教育委員会は、学校教育振興プランに基づき、学力・体力の向上や「鍛ほめ福岡メソッド」の展開など、様々な施策に取り組んでまいりました。

この間、全国学力・学習状況調査の小学校の標準化得点は全国平均を上回り、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の県平均値も小・中学校ともに全国を上回るなど、顕著な成果が認められています。

一方、新しい学習指導要領が令和2年度から実施されることに伴い、小学校英語の教科化やプログラミング教育が導入されるほか、教職員の働き方改革の推進や学校のICT環境の整備・充実など、学校教育を取り巻く環境は、様々な変革への対応が迫られています。

新しい時代を見据え、本県の現状やこれまでの施策の成果、課題等を踏まえ、福岡県学校教育振興プランの内容を総合的に検討し、改訂するものであります。

また、次期「福岡県教育振興基本計画（計画期間：令和4～8年度）」に本プランの理念を反映させていきます。

福岡県学校教育振興プランの改訂にあたっては、次の6つの視点を中心に改訂を行いたいと考えております。

### ○AI等の先端技術の発展を踏まえた学校教育の在り方

AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクスといった先端技術の急速な発展に伴い、社会の在り方が劇的に変わると言われている。このような時代を生きる子どもたちにとって、情報活用能力は「学習の基盤となる資質・能力」である。

国は、国家プロジェクトとして学校のICT環境整備を抜本的に充実させる方針であり、いわゆる「GIGAスクール構想の実現」に向け、本県も同水準の環境整備を早急に進める考えである。

今後の学習活動において、ICTを基盤とした先端技術を積極的に活用することが想定されており、ICTを活用した個別学習や協働学習など、次世代型の教育環境を整備することが急務である。

## ○多文化共生社会における学校教育の在り方

我が国は、外国人の子どもたちや日本語指導が必要な日本国籍の子どもたちが増加しており、本県も同様の傾向にある。当該児童生徒等は、共生社会の一員として今後の日本を作る存在であることを認識し、適切な教育機会が確保されることが必要である。

また、このことは、すべての子どもたちにとっても異文化交流等を通じたグローバル人材の育成の観点から効果が期待される。

## ○知識基盤社会における教育活動の在り方

知識基盤社会において求められる多様で幅広い知識・技術のすべてを個人に求めることは困難である。個人が専門性を高め、多種多様な人材が集い、その能力を活かし、チーム全体としての力を最大限発揮できるようにすることが重要である。

また、このような社会における教育は、柔軟な思考力や創造性をもとに、多様な他者と協働しながら納得解を見出すことができる人材を育成する観点が重要となる。

このため、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、さらなる授業改善を進め、今後も粘り強く「思考力・判断力・表現力等」の育成に取り組んでいくとともに、探究的・協働的な学びやS T E A M教育などの教科横断的な学びの在り方を検討することが必要である。

## ○学習者の多様化や学習要求の個別化への対応

本県では、新たに「フレックス型」の単位制高校を2校開校する予定であることや、長期入院中の生徒に対する学習機会と学習の質を確保する遠隔型の教育など、多様化する学習者への対応を進めてきた。

今後も、県立学校においてこれらの取組を継続しつつ、本県の人口が減少局面に入っていく可能性があることを踏まえ、各高等学校の特色や魅力を明確にししながら、地域の特性や生徒の学習目的、学習要求、進路希望にきめ細かに応えうる制度的な検討が必要と考えている。

## ○教育に関する科学的知見と実証の重視

県教育委員会では、「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた実践を通して、学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心など、子どもが自律的に成長するための原動力となる人格的資質の育成に取り組んできた。また、令和元年度からは、「基礎学力の定着」を取組テーマに研究を行っている。

今後、この「鍛ほめ福岡メソッド」で育成された、いわゆる非認知能力の習得状況の測定や、基礎学力の習得状況との関係について、科学的知見を有する専門家を活用するなど、明確なエビデンスの下に検証を行う。

### ○「社会に開かれた教育課程」の実施を通じた地域と一体となった学校づくり

これからの教育は、社会と連携・協働し、子どもたちが未来の作り手となるために必要な資質・能力を育成する「社会に開かれた教育課程」が重視されている。

そのためには、家庭や地域社会と学校がさらなる積極的な連携を進め、相互の意志の疎通を図り、それらを教育課程の編成、実施に生かしていくことが重要である。また、本県においても学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）や地域学校協働活動等の取組の広がりが見られており、これらの取組の中で、教育課程を介し学校と地域がつながり、地域でどのような子どもを育てるのかといった目標やビジョンを共有し、相互の課題を解決する協働活動を行う「地域と一体となった学校づくり」が必要となる。

## 本県学校教育の状況について

---

### (1) 学力

学校教育振興プラン策定時、本県小・中学校児童生徒の学力の状況は、全国平均を下回るとともに、地域間の差が大きいことや成績上位層もかなりの数がある一方で、下位層の割合が大きいといった課題が見られた。

本県では、確かな学力の育成を図るため、学力向上推進強化市町村への学力向上支援チームの派遣や、非常勤講師の重点的配置による少人数指導等のきめ細やかな指導の充実など、県、市町村、学校が一体となった学力向上の取組を総合的に展開することにより、児童生徒の実態に即した取組を行ってきた。

令和元年度の全国学力・学習状況調査結果では、小学校は国語が全国を上回り、算数は全国と同値、平均（国・算）は5年連続で向上した。また、中学校は平均（国・数）が4年連続で改善傾向にあり、取組の効果があったと考えられる。

一方で、依然として地域間の差があり、小学校算数では全国より成績下位層の割合が大きいこと、中学校では依然として全教科で全国を下回っていることなどの課題がある。

### (2) 体力

学校教育振興プラン策定時、本県小・中学校児童生徒の体力の状況は、男女ともに全国平均を下回っており、特に中学校女子が大きく下回っていた。また、中学校の運動部活動の加入率が低いことや、全く運動をしない生徒がいることなど、運動やスポーツをする習慣の定着に課題が見られた。

子どもの運動習慣の定着と体力向上を図るため、朝のジョギングや学校行事での縄跳び大会などの「1校1取組」運動の推進や、小・中学校の体育担当教員を対象として、体力向上に関する取組についての研修などを実施し、子どもの運動・スポーツへの動機付けや運動の習慣化を目的とした取組の強化を行ってきた。

令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果では、小学校男女及び中学校男女すべての区分において、3年連続で全国平均を上回るなど、取組の効果があったと考えられる。

一方で、学校の体育の授業以外で週3日以上運動やスポーツをする児童生徒の割合が依然として50%を下回っており、運動やスポーツをする習慣の定着に課題がある。

### (3) いじめや不登校等への対応

いじめ・不登校の予防・解消を図るため、教育相談体制の整備・充実及びスクールカウンセラー等の専門家や関係機関等との連携・協働により、楽しく学べる学校づくりを推進する取組の強化を行ってきた。

不登校から継続して登校できるようになった児童生徒の割合や、いじめの認知件数のうち解消した件数の割合が全国平均を上回るなど、取組の効果があったと考えられる。

一方で、いじめを認知したものがすべて解消しているわけではなく、引き続き危機意識を持って取り組む必要がある。

#### (4) 「鍛ほめ福岡メソッド」の実践

小・中学校において、福岡県独自の指導方法「鍛ほめ福岡メソッド」の実践を通して、学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心等を育成するとともに、基礎学力の定着を図る取組、読書活動及び運動を通じた「鍛ほめ福岡メソッド」の研究を行っている。

「鍛えよう！ほめよう！」プロジェクト推進校及び研究協力校において、学校行事や地域活動等の中で「鍛ほめ福岡メソッド」を実践したことにより、学ぶ意欲等の高まりに一定の効果があることが認められている。

今後さらなる推進のため、研修会等を通じて「鍛ほめ福岡メソッド」の理念の具体的な理解を図るとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を一層充実させる実践とその検証を行う。

#### (5) 学校、家庭、地域の連携・協働

学校、家庭、地域の連携・協働については、本県においても、学校支援や学習支援、放課後等の活動支援の取組が広がり、社会総がかりで子どもの成長や学校を支える地域の体制づくりが推進されている。

令和元年度において、「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」に取組む小・中学校は 253 校、「地域学校協働活動」においては、300 校区であり、さらに、双方の取組を行っている学校においては、学力も高い傾向が見られる。しかし、取組の中には、目標が不明確なまま活動が実施されたり、連絡調整のための業務を学校が担っていたりしているところもあり、学校と地域がパートナーとして相互関係による一体的な教育活動には至っていない。

これらの現状を改善しさらなる推進を図るため、連携・協働の在り方を再構築し、全県的な取組みへ広げるとともに、その効果等を検証する必要がある。

#### (6) その他の諸課題

障がいのある幼児児童生徒の教育的ニーズの高まりに伴い、特別支援教育のさらなる充実が求められている。「県立特別支援学校の今後の整備方針について」に基づく県立特別支援学校の教育環境の整備や、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級といった連続性のある「多様な学びの場」における教育の充実、就学前における支援の充実、教職員の専門性の向上を図っている。

本県の小・中学校には、日本語指導が必要な児童生徒は 302 名在籍し（※1）、その数は平成 28 年度と比較して約 2 倍となっており、今後も増加が予想されており、日本語指導担当教員の指導力の向上などが求められている。

また、外国人児童生徒の増加を含むグローバル化の進展に対応した教育や、国際的な広い視野を備え、地域社会に貢献できるような人材、地域に根差したグローバルリ

ーダー（いわゆるグローバル人材）の育成が求められている。

なお、本県の中学校、高等学校における生徒の英語力は国の目標（※2）を下回っており、さらなる改善が必要である。

※1【日本語指導が必要な児童生徒数】

文部科学省調査「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成30年度）」における政令指定都市を除いた児童生徒数。

※2【国の目標】

中学校卒業段階でCEFR A1（英検3級程度以上）、高等学校卒業段階でCEFR A2（英検準2級程度以上）程度以上を達成した中高生の割合を50%とする。

情報通信技術（ICT）やAI等の先端技術を活用した、一人一人の能力、適性等に応じた学びや、ICT活用指導力を含む学びの変化に応じた教師の資質・能力が求められている。

しかしながら、その基盤となる本県のICT環境は全国の状況に比べ大きく遅れをとっており（※3）、早急にICT環境の整備を進めるとともに、教師の資質・能力の向上を図る必要がある。

※3【本県のICT環境状況（平成31年3月現在）】

教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	7.1人/台（全国44位）
普通教室の無線LAN整備率	14.0%（全国46位）

○学力の状況について

全国学力・学習状況調査 本県の標準化得点の推移

〈小学校〉

- ・昨年度（A・B問題を平均した値）との比較では、国語は上昇し、算数は同様であった。
- ・平成19年度（A・B問題を平均とした値）との比較では、国語、算数ともに上昇した。
- ・国語、算数の値を平均すると、調査開始以来、最も高い値である。

〈中学校〉

- ・昨年度（A・B問題を平均した値）との比較では、国語は下降し、数学は上昇した。
- ・平成19年度（A・B問題を平均とした値）との比較では、数学において上昇した。
- ・国語、算数の値を平均すると、4年連続で改善傾向である。

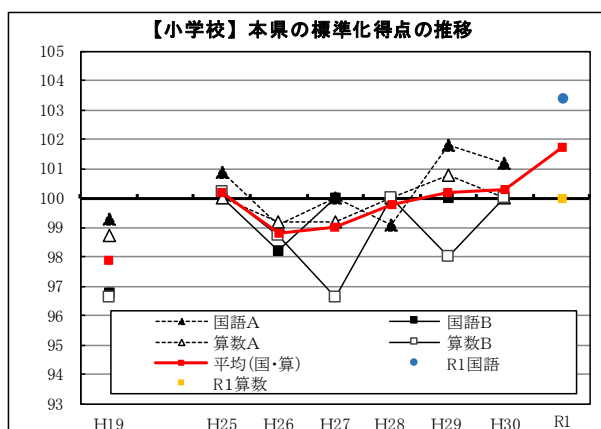
※本年度からA・B問題が統合されたため、H25～H30は参考として示す。

※中学校英語については、初めての実施であったため推移については触れていない。

【小学校】本県の標準化得点の推移

	国語A	国語B	算数A	算数B	平均
H19	99.3	96.8	98.7	96.6	97.9
H25	100.9	100.0	100.0	100.0	100.2
H26	99.1	98.2	99.2	98.7	98.8
H27	100.0	100.0	99.2	96.6	99.0
H28	99.1	100.0	100.0	100.0	99.8
H29	101.8	100.0	100.8	98.0	100.2
H30	101.2	100.0	100.0	100.0	100.3
H31	国語		算数		平均
(R1)	103.4		100.0		101.7

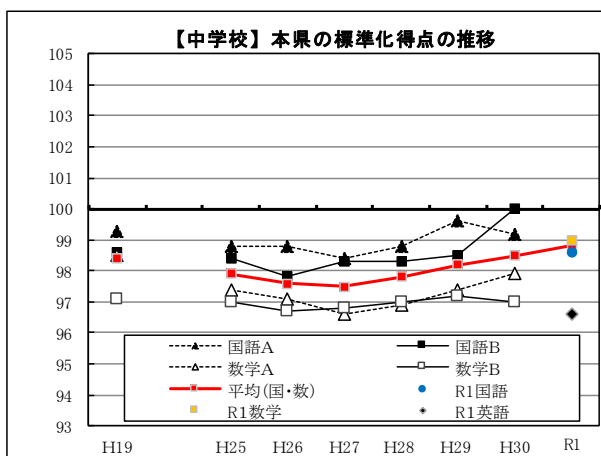
※「平均」は、国語と算数の標準化得点を平均した値である。



【中学校】本県の標準化得点の推移

	国語A	国語B	数学A	数学B	平均	
H19	99.3	98.6	98.5	97.1	98.4	
H25	98.8	98.4	97.4	97.0	97.9	
H26	98.8	97.8	97.1	96.7	97.6	
H27	98.4	98.3	96.6	96.8	97.5	
H28	98.8	98.3	96.9	97.0	97.8	
H29	99.6	98.5	97.4	97.2	98.2	
H30	99.2	100.0	97.9	97.0	98.5	
H31	国語		数学		平均	英語
(R1)	98.6		99.0		98.8	96.6

※「平均」は、国語と数学の標準化得点を平均した値である。



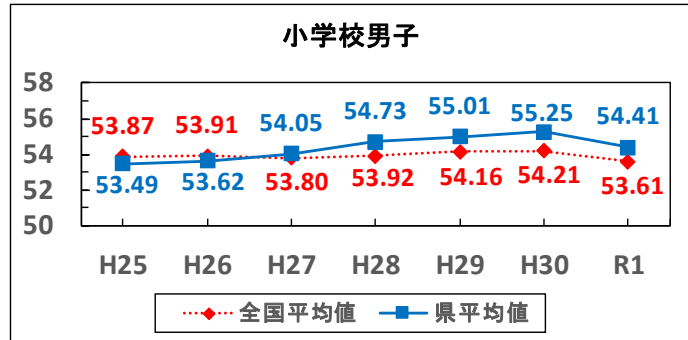
(「全国学力・学習状況調査(文部科学省)」より)

## ○体力・運動能力の状況について

- ・ 小学校男女及び中学校男女すべての区分で県平均値が全国平均値を上回った。
- ・ 小学校男子の県平均値は5年連続、中学校男子は4年連続、全国平均値を上回った。
- ・ 小学校女子及び中学校女子の県平均値は、3年連続、全国平均値を上回った。
- ・ 小学校男女及び中学校男女すべての区分で県平均値は昨年度を下回った。

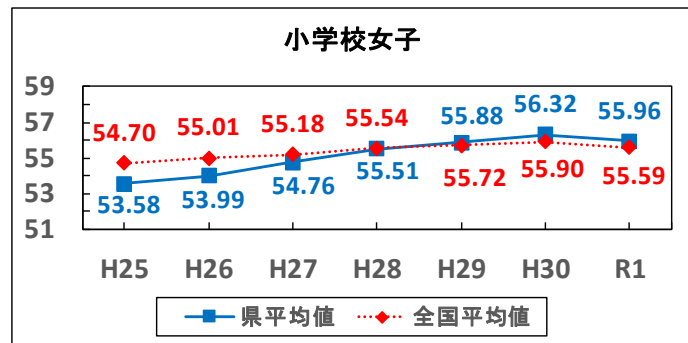
### 小学校男子

年度	県平均値	全国平均値	差
H25	53.49	53.87	△ 0.38
H26	53.62	53.91	△ 0.29
H27	54.05	53.80	0.25
H28	54.73	53.92	0.81
H29	55.01	54.16	0.85
H30	55.25	54.21	1.04
R1	54.41	53.61	0.80



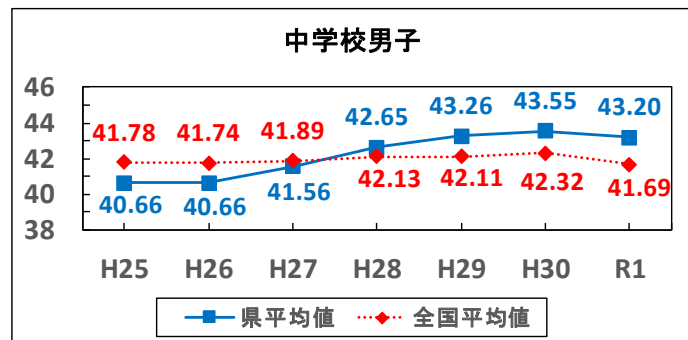
### 小学校女子

年度	県平均値	全国平均値	差
H25	53.58	54.70	△ 1.12
H26	53.99	55.01	△ 1.02
H27	54.76	55.18	△ 0.42
H28	55.51	55.54	△ 0.03
H29	55.88	55.72	0.16
H30	56.32	55.90	0.42
R1	55.96	55.59	0.37



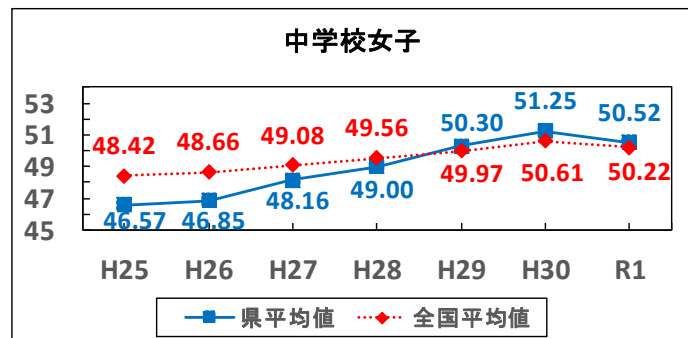
### 中学校男子

年度	県平均値	全国平均値	差
H25	40.66	41.78	△ 1.12
H26	40.66	41.74	△ 1.08
H27	41.56	41.89	△ 0.33
H28	42.65	42.13	0.52
H29	43.26	42.11	1.15
H30	43.55	42.32	1.23
R1	43.20	41.69	1.51



### 中学校女子

年度	県平均値	全国平均値	差
H25	46.57	48.42	△ 1.85
H26	46.85	48.66	△ 1.81
H27	48.16	49.08	△ 0.92
H28	49.00	49.56	△ 0.56
H29	50.30	49.97	0.33
H30	51.25	50.61	0.64
R1	50.52	50.22	0.30



(「全国体力・運動能力、運動習慣等調査調査(文部科学省)」より)